



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

広島県 福山市立精華中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「
オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：中野 紘志 先生 (ボート) 【出場オリンピック/リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2022年11月25日(金)

■ **ク ラ ス**：2年生/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●ボート競技でリオデジャネイロ2016大会に出場したと自己紹介。運動の時間を通し、オリンピックバリューの3つの価値である、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意/尊重」を感じてほしい。準備体操として、オリンピック出場時に行っていたストレッチを実施。ボート競技は、柔軟性が重要な競技であるため、筋肉をほぐし、伸びていることを意識して取り組んでほしいと伝える。

○主運動等



●準備運動として「言うこと一緒、やること一緒」を実施。ボート競技の2人乗り以上の場合、相手の動きに合わせるが大変重要であるため、動きを合わせることを意識して、中野先生の動きの細かなところまで、よく観察して真似てほしいと伝える。
●主運動として「新聞紙でボール運びリレー」を実施(全3回)。各チーム2人1組で新聞紙を広げて1枚持ち、新聞紙の上にボールを乗せてリレーを行う。



●運動の時間を振り返り、結果や順位が全てではなく、1秒でも早くゴールするために、各チームが改善点を見直し、ベストを尽くしたことに自信を持ってほしい。チームでより良い結果を出すという同じ目標に向かい、一生懸命取り組み、ライバルチームがいるからこそ頑張ることができたと思うが、これらがオリンピックバリューの3つの価値である。次の学年の時間では、オリンピックバリューの3つの価値について、自分のオリンピック出場までの経験も踏まえて、さらに掘り下げていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：中野 紘志 先生 (ボート)【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2022年11月25日(金)

■ **ク ラ ス**：2年生／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・スライドを見せながら、ボート競技でリオデジャネイロ2016大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックバリューの3つの価値やオリンピックがなぜ凄いと感じるのか、自身の経験を踏まえ、伝えていきたいと授業の目的を確認。
- ・人生をオセロゲームに例え、オリンピック出場までは挫折(黒色)も多かったが、黒色を置き続けたことで、オリンピック出場(白色)に置き替えることができた。「努力はいつか報われる」ことを知ることができたと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問①：「自分には○○、できない」に2文字入れるだけで、前向きな考えに変えることができます。○○にはどのような文字が入るでしょう。」
 発問②：「欧州地域の選手が試合に負けた後によく発する、前向きな言葉があります。それは、どのような言葉でしょう。」
 発表①：「自分にはまだ、できない」(正解)
 発表②：「あの人凄い、自分も真似しよう」「あの人凄いが、ここまで頑張れた自分も凄い」等(正解：「今日は自分の日ではなかった」)



- ・例え「黒色」が続いたとしても、自分が「白色」に替えられることを、如何に信じ、次に繋げるかが大切である。スポーツだけでなく、今後の人生において、様々なことに挑戦し、失敗してもめげずに努力を続けてほしい。何事も1つ駄目であったからと、すぐに諦めてしまうのではなく、何が自分にできるかをじっくり考え、探し、工夫し、お互いにパワーを与え合いながら、歩んでいってほしい。「黒色」を置く勇気をもって、「努力はいつか報われる」ということを忘れないでほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年生



■ 記念品贈呈

・2年生



■ 修了証贈呈

